

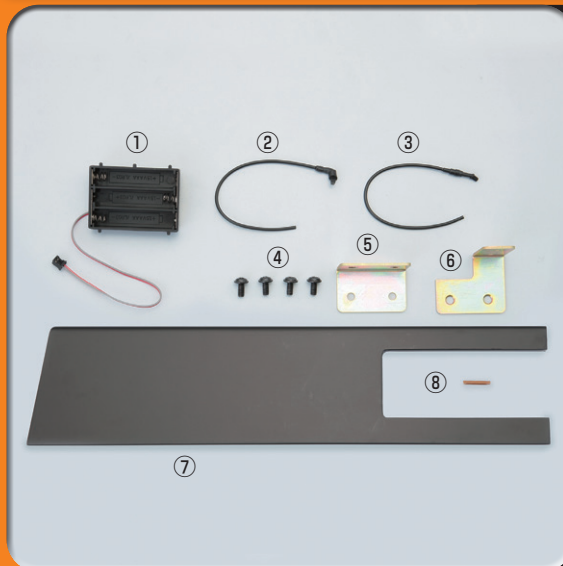
今号の作業

エンジンにプラグコードを取り付ける



今号では、残り2本となった「プラグコードA/B」をエンジンに取り付ける。また、「電池ボックス」と「ディスプレイベース用パーツ」も提供する。電池ボックスは車体に搭載される電飾ギミックの電源となる。ディスプレイベースは、電飾ギミックの操作装置も兼ねているので、指示があるまで大切に保管しておこう。

今号のパーツ



- ①電池ボックス×1
- ②プラグコードA×1
- ③プラグコードB×1
- ④4×9mmワッシャー付きビス×4
- ⑤メタルクリップE×1
- ⑥メタルクリップA×1
- ⑦ベースフレーム1×1
- ⑧連結ピン×1

※①④⑤⑥⑦⑧は今回の組み立てに使用しないので、大切に保管しておこう。

用意するもの

- ・メインフレーム右(50号の作業で、メインフレーム左を取り外した状態のもの)
- ・マスキングテープ
- ・ビニール袋(パーツが入っていた袋で可)
- ・油性ペン

使用する道具

- ・ピンセット

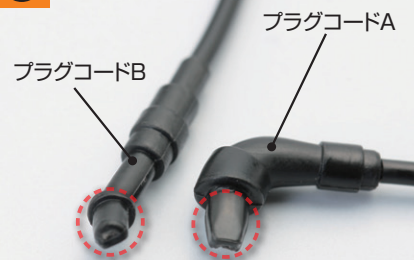
あると便利な道具

- ・瞬間接着剤(低白化タイプ)

※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。

※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様異なる場合があります。

STEP
1



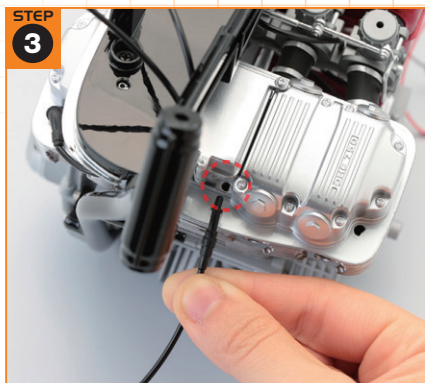
②プラグコードAと③プラグコードBの形状を確認する。それぞれ先端部分の形状が異なり、なおかつ取り付け部の片面は丸くなっている。

STEP
2



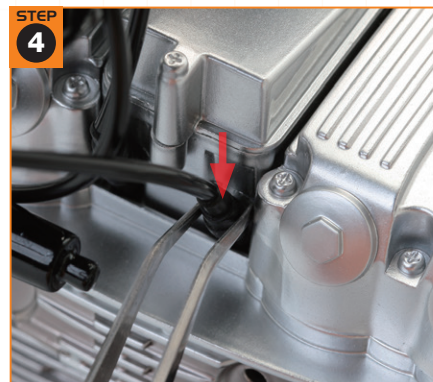
プラグコードAとBの取り付け部・裏面の状態。こちら側は平らになっており、抜けにくくするための「リブ(細い線状の突起)」が設けられている。

STEP
3

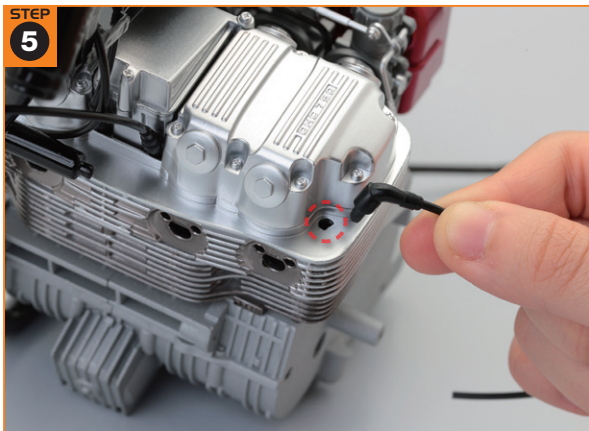


50号で「メインフレーム左」を取り外した状態の「メインフレーム右」を用意しよう。シリンダーヘッドカバーの写真で示した穴に、プラグコードBの取り付け部をセットする。穴の形状とコード先端の形状を合わせる。なお、47号の作業で、シリンダーヘッドカバーのメインフレーム右寄りに、同じくプラグコードA/Bを取り付けている。

STEP
4



ピンセットを使い、プラグコードBをしっかりと押し込んで取り付ける。



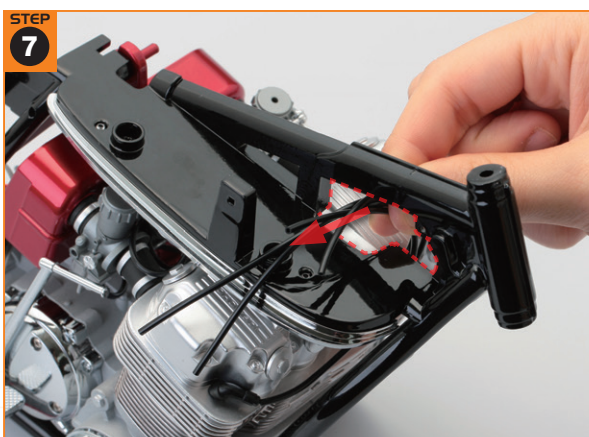
プラグコードAを用意し、写真で示したシリンダーヘッドカバーの残りの穴にセットする。こちらも穴の形状とコード先端の形状を合わせること。



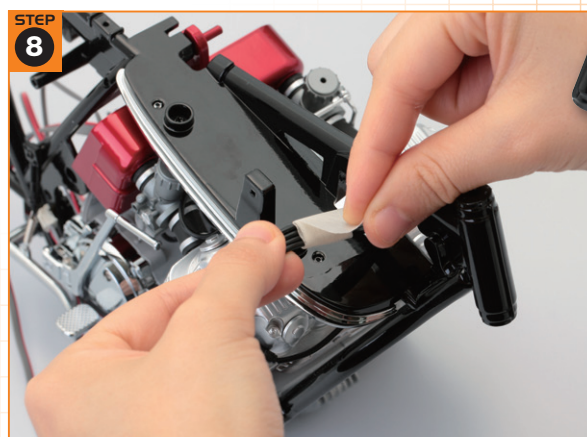
プラグコードAをしっかり押し込んで取り付ける。

× プラグコードが抜けやすい場合 ×

しっかりはめ込んでもゆるく、抜け落ちてしまう場合は、取り付け部先端に瞬間接着剤(低白化タイプ)を少量塗布するといい。

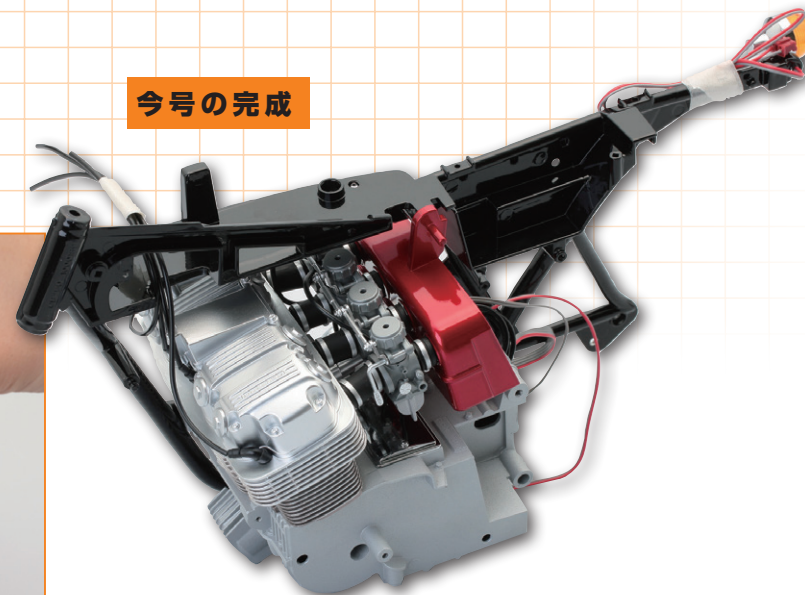


47号で取り付けした2本のプラグコードもまとめて、合計4本となったプラグコードを束ねて持つ。先端部分をメインフレーム右の上部の、写真に示した開口部に通す。



マスキングテープを使い、4本のプラグコードがバラバラにならないよう、ひとまとめにしておく。

今号の完成



これで今回の作業は完了だ。プラグコードは47号の作業で取り付けられているので、比較的容易に取り付けられたことだろう。なお、今号で提供した「電池ボックス」は次回の作業に欠かせないものなので、コネクターケーブルを傷めないよう大切に保管しておくこと。ディスプレイベース用パーツも、号数を記入したビニール袋に入れて保管しよう。